

我が家には小学四年と五年の二人の息子がいます。子供たちと読書との関わりを考えてみると、まだ赤ちゃんの頃に、絵本をいっしょに見たり、読んであげたりしたことからはじまったと思います。絵が単純でカラフルなもの、あるいは形が抜いてあったり、めくったりすることができると、それらに合せて、名まえ・形・音などを声に出してみました。思えば歌を歌ったりもしました。生まれたところから、眠っている時以外は話しかけたり歌ったりしていたので、本当に意味がわかっていただけたのかどうかは分



家庭読書のすすめ

我が家の親子読書

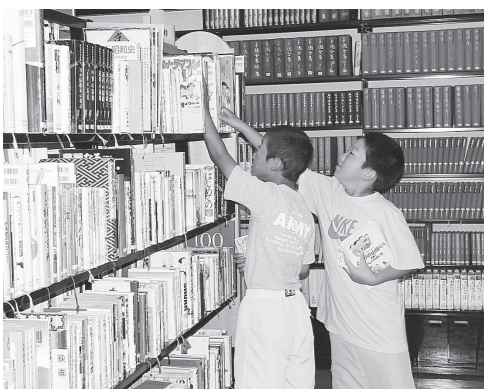
新町上 天野 ひとみ

赤ちゃんのころから

我が家には小学四年と五年の二人の息子がいます。子供たちと読書との関わりを考えてみると、まだ赤ちゃんの頃に、絵本をいっしょに見たり、読んであげたりしたことからはじまったと思います。絵が単純でカラフルなもの、あるいは形が抜いてあったり、めくったりすることができると、それらに合せて、名まえ・形・音などを声に出してみました。思えば歌を歌ったりもしました。生まれたところから、眠っている時以外は話しかけたり歌ったりしていたので、本当に意味がわかっていただけたのかどうかは分

幼稚園になると

幼稚園に通うようになると、毎月園で配られる絵本を楽しみにしていました。そして、この頃から町の図書館を訪れるよう



どれを読もうかな…

小学校入学後

小学校に入学してからは、お兄さん、お姉さんたちの影響を受けて、いろいろなジャンルの本を手にするようになってきました。歴史上の人物や政治、クイズ本や図鑑など、興味を持つたありとあらゆる分野です。そして家に持ち帰っては、いっし



兄弟揃って、パソコンで検索

よに見ようと誘ったり、内容について話したりしてくれました。学年が上がるにつれて、町の図書館ではパソコンで検索ができるようになり、ますます読書の幅が広がりました。親としてはもう少し文学作品に目を向けてくればいいのに、と正直思っています。選ぶ本については口出ししないようにしています。時間を作るのは大変ですが、あと少ししかできないと思うので、寝る前にできるだけいっしょに本を読むようにしています。また、私自身が日常的に読書を楽しむように心がけたいと思います。



じゃあ、読もう！

下諏訪町立図書館

2010年は国民読書年。「じゃあ、読もう」はそのキャッチフレーズです。ネット社会の急速な発達による読書離れ・活字離れが指摘されています。「若い層を中心に新聞の購読数が減少しており、新聞社でも危機感をもっている」というお話を、関係の方から伺ったことがあります。またインターネットの普及に伴い、ゲームやメールなどに時間を費やす若者や子どもが増加、電子

の急速な発達

による読書離れ・活字離れが指摘されています。「若い層を中心に新聞の購読数が減少しており、新聞社でも危機感をもっている」というお話を、関係の方から伺ったことがあります。またインターネットの普及に伴い、ゲームやメールなどに時間を費やす若者や子どもが増加、電子

辞書や電子書籍なるものの急速な普及など、原因の特定はできないものの、活字離れ・読書離れを起こしそうな環境が一層進み、深刻な問題となつていきそうです。活字離れ・読書離れが進むと、私たちの言語力や読解力は急速に落ちていくことは、想像にかたくありません。私たちの精神は言語によって形づくられているので、言語力なしには思考そのものも覚束なくなつてしまいます。

このような危機意識から、国会では「子ども読書年に関する決議」を採択し、「国民読書年」を定めたという経緯があります。また新学習指導要領では、「読解力は全ての基礎」として、各教科における幅広い種類の読解力をつけようと、教育現場で取り組みを強化しています。下諏訪町でも、学校での「朝

読書」（朝の全校一斉読書）や家庭での読み聞かせなど、地域全体で読書を推進する「読書のまちづくり」を目指して、2007年には「生涯読書支援活動推進計画」が作られ、幼児から生涯にわたる読書活動への取り組みを進めています。読書の楽しみは、いろいろな人の考えや生き方にふれることができることです。物語の主人公になっていろんな体験をして感動を覚えたり、多くの新しい知識を得たり、様々な生き方を学んだりすることができます。そして何より、読む人の心を深く豊かにしてくれます。

「国民読書年」をきっかけにして、もっともつと大勢の人に読書の楽しさを知ってほしいと願っています。



読書の木

図書館では、今年も「子ども読書の日」にちなみ、四月二十日から五月七日まで、「読書の木」を育てました。七十七人が自分の好きな本を葉っぱに書いて、大きな読書の木に育ててくれました。楽しい本がいっぱい

